【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和4年10月31日(2022.10.31)

【公開番号】特開2021-65512(P2021-65512A)
【公開日】令和3年4月30日(2021.4.30)
【年通号数】公開・登録公報2021-020
【出願番号】特願2019-194204(P2019-194204)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３１５Ａ

【手続補正書】
【提出日】令和4年10月20日(2022.10.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
遊技盤に形成された遊技領域に向けて遊技球を発射することによって遊技を行う遊技機であって、
特別図柄を変動表示させる特別図柄表示手段と、
特別図柄が小当り図柄で停止表示される場合に、可変入球口が入球可能状態となる小当り遊技を実行する小当り遊技実行手段と、
前記小当り遊技中に可変入球口に遊技球が入球して当該遊技球が特定領域を通過した場合に、可変入球口が入球可能状態となるラウンド遊技が複数回行われる２種当り遊技を実行する２種当り遊技実行手段と、
を備え、
前記小当り遊技が行われる場合は、可変入球口が入球不能状態となるまでの残り時間を示唆する残り時間示唆演出を実行可能である
ことを特徴とする遊技機。
【請求項２】
請求項１に記載の遊技機において、
発射された遊技球は、所定の移動所要時間が経過した後に可変入球口に到達するものであり、
前記残り時間示唆演出は、可変入球口が入球不能状態となるよりも前記移動所要時間以上前に、可変入球口が入球不能状態となるまでの残り時間が０であることを示唆する
ことを特徴とする遊技機。
【請求項３】
請求項１または請求項２に記載の遊技機において、
特別図柄が大当り図柄で停止表示される場合に、可変入球口が入球可能状態となるラウンド遊技が複数回行われる１種当り遊技を実行する１種当り遊技実行手段を備え、
前記１種当り遊技が開始されてから１回目の前記ラウンド遊技が行われる場合も、前記残り時間示唆演出を実行可能である
ことを特徴とする遊技機。
【請求項４】
請求項３に記載の遊技機において、

前記小当り遊技中に可動部材を許容状態とすることが可能であり、
前記小当り遊技中に可変入球口に入球した遊技球は、前記可動部材が前記許容状態である場合に前記特定領域を通過可能となるものであり、
前記１種当り遊技が開始されてから１回目の前記ラウンド遊技が行われる場合も、前記可動部材を前記許容状態とすることが可能である
ことを特徴とする遊技機。
【請求項５】
請求項３に記載の遊技機において、
前記小当り遊技中は、遊技球が可変入球口に入球していないことを示唆する警告表示を実行可能であり、
前記１種当り遊技が開始されてから１回目の前記ラウンド遊技が行われる場合も、前記警告表示を実行可能である
ことを特徴とする遊技機。
【請求項６】
請求項３に記載の遊技機において、
前記小当り遊技中に可変入球口に遊技球が入球して当該遊技球が前記特定領域を通過した場合は、遊技球が前記特定領域を通過したことを示す通過演出を実行可能であり、
前記１種当り遊技が開始されてから１回目の前記ラウンド遊技が行われる場合も、前記通過演出を実行可能である
ことを特徴とする遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
上述した課題の少なくとも一部を解決するために、本発明の遊技機は次の構成を採用した。すなわち、
遊技盤に形成された遊技領域に向けて遊技球を発射することによって遊技を行う遊技機であって、
特別図柄を変動表示させる特別図柄表示手段と、
特別図柄が小当り図柄で停止表示される場合に、可変入球口が入球可能状態となる小当り遊技を実行する小当り遊技実行手段と、
前記小当り遊技中に可変入球口に遊技球が入球して当該遊技球が特定領域を通過した場合に、可変入球口が入球可能状態となるラウンド遊技が複数回行われる２種当り遊技を実行する２種当り遊技実行手段と、
を備え、
前記小当り遊技が行われる場合は、可変入球口が入球不能状態となるまでの残り時間を示唆する残り時間示唆演出を実行可能である
こととしてもよい。
また、本発明の遊技機は、
発射された遊技球は、所定の移動所要時間が経過した後に可変入球口に到達するものであり、
前記残り時間示唆演出は、可変入球口が入球不能状態となるよりも前記移動所要時間以上前に、可変入球口が入球不能状態となるまでの残り時間が０であることを示唆する
こととしてもよい。
また、本発明の遊技機は、
特別図柄が大当り図柄で停止表示される場合に、可変入球口が入球可能状態となるラウンド遊技が複数回行われる１種当り遊技を実行する１種当り遊技実行手段を備え、
前記１種当り遊技が開始されてから１回目の前記ラウンド遊技が行われる場合も、前記

残り時間示唆演出を実行可能である
 こととしてもよい。
また、本発明の遊技機は、
前記小当り遊技中に可動部材を許容状態とすることが可能であり、
前記小当り遊技中に可変入球口に入球した遊技球は、前記可動部材が前記許容状態である場合に前記特定領域を通過可能となるものであり、
前記１種当り遊技が開始されてから１回目の前記ラウンド遊技が行われる場合も、前記可動部材を前記許容状態とすることが可能である
 こととしてもよい。
また、本発明の遊技機は、
前記小当り遊技中は、遊技球が可変入球口に入球していないことを示唆する警告表示を実行可能であり、
前記１種当り遊技が開始されてから１回目の前記ラウンド遊技が行われる場合も、前記警告表示を実行可能である
こととしてもよい。
また、本発明の遊技機は、
前記小当り遊技中に可変入球口に遊技球が入球して当該遊技球が前記特定領域を通過した場合は、遊技球が前記特定領域を通過したことを示す通過演出を実行可能であり、
前記１種当り遊技が開始されてから１回目の前記ラウンド遊技が行われる場合も、前記通過演出を実行可能である
こととしてもよい。